



野矢茂樹（のや しげき） 哲学者。立正大学文学部哲学科教授。平明な文章による論理学入門書を多く執筆。練習問題を解きながら論理力を磨く「論理トレーニング」シリーズは、大きな反響を呼んだ。近著に『増補版 大人のための国語ゼミ』など。

AI研究をふまえて子供の読解力低下に警鐘を鳴らす  
数学者の新井紀子先生と、  
長年論理トレーニングの必要性を主張してきた  
哲学者の野矢茂樹先生に、  
じっくり語り合っていたきました。

# 生きるための論理

## 〈対談〉新井紀子×野矢茂樹

二〇二二年から実施される新しい高校学習指導要領では、論理的思考力の育成が強く打ち出されています。今なぜ論理が求められているのでしょうか。どうすれば論理の力が身につくのでしょうか。



新井紀子（あらい のりこ） 数学者。国立情報学研究所教授。人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」（東ロボ）に携わり、中高生の読解力を診断する「リーディングスキルテスト」を開発。近著に『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』など。

### 「教科書が読めない」子供たちの衝撃

◆野矢 まず、新井さんのご著書『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』の話から始めましょうか。この本の中で、リーディングスキルテストという方法で子供たちの読解力調査をされています。本当のことを言うと、私は読んだとき、とても信じられなかったんです。なんでこんな問題ができたんだらう、と。

◆新井 子供たちの読解力に関して、科学的に検証する方法論が今までなかったと思うんです。システムティックな調査をしてデータを出してみたら、子供たちが予想以上に文章を読めていなかったということがわかったんです。

◆野矢 やっぱ、実際目に見える形でデータを集めるっていうのは、すごく貴重なことですね。私は机上の空論と言われかねないことを、書いたりしゃべったりしているもので（笑）。

◆新井 いえいえ、そんなことはありませんよ（笑）。このリーディングスキルテストの結果を見ると、「ここは得意だけど、こつちが苦手なばかりに成績が上がらないんだな」とかということがすごくよくわかるんです。そういう診断書があるわけだから、もともと一人一人に合った教え方をすればいいんじゃないかと思うんです。

◆野矢 新井さんは、そうやって子どもたちの国語力の人間ドックをやってくれているんですね。そして私が今まで出してきた論理トレーニングの本や『増補版 大人のための国語ゼミ』はその処方箋に当たるものかもしれません。

### 論理をつかめない子供たち

◆新井 このあいだ小学四年生に国語の授業をしたんですが、板書を写せない子がクラスで20%くらいいました。文字を一字ずつ写す子がいるんですね。一文字写したら、顔を上げてまた探すんですよ。だから、どこまで写したのかわからなくなっちゃう。これでは意味が頭に入っていないですよ。

◆野矢 ノートがとれない子どもは昔からいたんでしょうけど、それとはまた意味が違いそうですね。

◆新井 今は電子黒板で教科書の紙面がスクリーンに映し出されるんですね。本文に



空欄があつて、生徒はそこに入る言葉を穴埋めすることが多いみたいなんです。それで、ノートがとれない子が増えたんじやないかと。それから、小学六年生から中学一年生になると「AであることをBといひます」というような定義文が、教科書で出てくる頻度が格段に増えるんですね。でも、リーディングスキルテストをやつてみると、そういう定義文が読めていない。

◆野矢 定義が読めないっていうのはどういうことですか。非常にシンプルな定義でもだめなんですか。

◆新井 例えば、「2で割り切れる整数を偶数といいます。」というように文の意味がきちんと理解できていないんです。でも、それができないのは子供たちの能力がないからではないはず。定義の読み方をもつとシステムティックに教えてあげればいと思ひます。この文から、①整数である、②2で割り切れる、という二つの要素を抜き出して、きちんとチェックさせる。そういう確認のしかたを、自転車に乗るときの方法論みたいに、意識して教えるべきだと思ひます。

◆野矢 なるほど。単に定義を一個頭に入

と思ひます。この部分とこの部分はどうつながるのか、この部分は全体の中でどういう意味をもっているのか、そういう関係をつかむのが苦手になってきているんじゃないでしょうか。だからこそ、言葉と言葉の関係がどうなっているか、つまり、論理をつかむ力が、ますます重要になっていと思ひます。

れることができない、という話じやないんだな。定義っていうのはいくつもの定義からなる体系があるから、その体系が理解できないっていうことですね。それはやはり、論理が把握できていないんでしょう。また今の子供たちは、分析することも同じく苦手になってきているということかもしれません。定義文を分解してチェック項目にするという作業は、まさに分析するっていうことですよ。

◆新井 はい。定義文が読めていないと、推論もできない。物事の論理や関係がわからないから、伸びしろが小さいんですよ。実は、こういう能力つてAIもあまり得意じやないんです。だから、AIにできないことこそ、子供たちもできなかったということになるんです。

◆野矢 たしかに、推論によって物事の関係がつかめれば、できることの数が飛躍的に増えますからね。

◆新井 学力が指数級数的に上がるんですよ。例えば、何通りかの物事のパターンがあったときに、そのすべてを覚えるんじゃないかと、推論によって一つの場合から他のすべての場合にたどり着けるようになる。

「論理の力」をほぐすには

◆野矢 私は、国語力をつけるには要約が最も有効だと信じているんですよ。文章を木に例えると、いちばん重要な幹と言ひたい中心的主張があつて、それから枝葉主張を説明したり、支えたりする部分があるはず。要約の訓練を重ねることによつて、その幹の部分だけをうまく切り出して文章の構造を取り出せるようになるわけです。その力がないと、幹も枝葉もなくて藪みたひになって、文章を読んでも頭に入らなくなる。先ほどの板書を一文字ずつ写そうとする子供は、藪どころか、文字ごとにばらばらに見えている可能性がありません。

◆新井 本当にそうですね。さらに言えば、私は「見たとおりに書ける」ということも、とても大事だと思ひます。例えば、オセロのゲームの様子を実況中継するという活動を小学生にやらせたりしています。それから、料理レシピ。私、お料理が大好きなんですけれども、『暮らしの手帖』のレシピは、すごく再現性が高いんですよ。

◆野矢 どういうことですか？



でもそれができない子供は、定期試験のたびに大量に覚え、すぐに忘れて、というのを繰り返します。そして、学ぶということ

◆野矢 やはり子供たちの力で明らかに落ちていっているものがあつて、その一つが関係をつかまえる力ではないかと。ちょっと曖昧な言い方なんだけれど、言葉がどんどん断片化しているという感じがするんです。切り取つた言葉がそのまま流通していくような時代になり、言葉がどんどん切れ切れになっている。

◆新井 本当にそのとおりです。

◆野矢 特にSNSがそれを加速している

◆新井 『暮らしの手帖』に書いてあるとおりにやれば、そのとおりにできるんですよ。誰が作つても同じ味に仕上がるようなレシピになつていっているということですよ。

◆野矢 ああ、それは「見たとおりに書く」というだけではなくて、相手が求めていることをその相手にわかるように書くということですね。正確に書くことに加えて、「これじゃあ相手はまだよくわからないな」とチェックできる力。そして相手にあわせて書ける表現力。

◆新井 そうそう。だから、オセロの実況中継も、見ていない人にもわかるように、正確に言葉で伝える学習をさせています。

まず、「語学としての国語」を

◆野矢 高校生や大学生がまず身につけるべきなのは、凝つた文章、職人芸的な読解を要求する文章ではなく、一度読めばわかる文章、それを書いたり、読んだりできる力ではないかと思ひます。私は「語学としての国語」と呼んでいっているんです。高校の国語にはこれまでそういう観点が乏しかったのではないのでしょうか。

◆新井 私もそう思ひますね。これから日



◆野矢 いや、職人芸も大事だと思いますけどね。でも、おっしゃっていることはよくわかります。「国語は数学と違って、正解がない」とよく言われますね。それも、ある真実を突いているとは思いますが。ただ、まず正解があるところでしょうかとトレーニンングしておくことが、必要

◆野矢 ところが、私の文章はよく入試に出ちゃうんですよ。不本意なことには(笑)。「大学入学共通テスト」というのが始まるうとしていますね。その試行調査(二〇一八年二月実施)を見ました。私自身は、一度読んでらわかる文章をちゃんと一度読んでわかる力という観点から、この新しい入試の方向性は全く正しいと思っているんです。

◆新井 私も、国語のプレテストを拝見しました。今回は全体的にいい問題だったなと感じました。古典の問題を見て感じたんですが、「教養として古典に親しむ」という目標が達成されるのなら、古典の問題に現代語で注釈や人間関係があらかじめ書いてあってもいいと思えました。それで古典学習の負担が減りますよね。そして、野矢先生がおっしゃるような「普段着の文章」が、

◆野矢 「昔と比べると国語力は落ちてるんですか」ってよく聞かれるんですよ。私は「昔のほうがよかった」とは言いたくないので、「基本的な国語力は変わらないんだけれど、今のほうがより論理的な国語力や、コミュニケーション力が求められるような状況・時代になっているということじゃないですか」と答えているんです。

◆新井 おっしゃるとおりだと思います。先ほど、誰でも同じ味が再現できるレンジという話をしましたけれど、それって実はすごいことなんです。特別な人だけでなく、すべての人に、プロの味にアクセスする権利があるということですから。それはつまり、民主主義ということなんです。民主主義を真の意味で実現するための国語教育ということなんです。再現性の高い料理レシピのような文章を読んだり書いたりできるということが、多様性に対する寛容さにつながっていく。わかる人にかかわらず職人芸というのは、不寛容ではないでしょうか。

◆野矢 いや、職人芸も大事だと思いますけどね。でも、おっしゃっていることはよくわかります。「国語は数学と違って、正解がない」とよく言われますね。それも、ある真実を突いているとは思いますが。ただ、まず正解があるところでしょうかとトレーニンングしておくことが、必要

◆野矢 「昔と比べると国語力は落ちてるんですか」ってよく聞かれるんですよ。私は「昔のほうがよかった」とは言いたくないので、「基本的な国語力は変わらないんだけれど、今のほうがより論理的な国語力や、コミュニケーション力が求められるような状況・時代になっているということじゃないですか」と答えているんです。

◆新井 おっしゃるとおりだと思います。先ほど、誰でも同じ味が再現できるレンジという話をしましたけれど、それって実はすごいことなんです。特別な人だけでなく、すべての人に、プロの味にアクセスする権利があるということですから。それはつまり、民主主義ということなんです。民主主義を真の意味で実現するための国語教育ということなんです。再現性の高い料理レシピのような文章を読んだり書いたりできるということが、多様性に対する寛容さにつながっていく。わかる人にかかわらず職人芸というのは、不寛容ではないでしょうか。

◆野矢 いや、職人芸も大事だと思いますけどね。でも、おっしゃっていることはよくわかります。「国語は数学と違って、正解がない」とよく言われますね。それも、ある真実を突いているとは思いますが。ただ、まず正解があるところでしょうかとトレーニンングしておくことが、必要

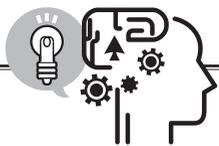
◆野矢 ところが、私の文章はよく入試に出ちゃうんですよ。不本意なことには(笑)。「大学入学共通テスト」というのが始まるうとしていますね。その試行調査(二〇一八年二月実施)を見ました。私自身は、一度読んでらわかる文章をちゃんと一度読んでわかる力という観点から、この新しい入試の方向性は全く正しいと思っているんです。

◆新井 私も、国語のプレテストを拝見しました。今回は全体的にいい問題だったなと感じました。古典の問題を見て感じたんですが、「教養として古典に親しむ」という目標が達成されるのなら、古典の問題に現代語で注釈や人間関係があらかじめ書いてあってもいいと思えました。それで古典学習の負担が減りますよね。そして、野矢先生がおっしゃるような「普段着の文章」が、

◆野矢 国語って、全教科のベースになるものですからね。もちろん、文学は文学で、また別にきちんとやるべきだとは思いますが。でも、優先順位の問題ですよ。

◆新井 そうですね。

◆野矢 教師がやるべきことは、誰もがでさることを、誰もができるようにすることだと思っんです。例えば、先生方は普通



# 新しい科目で学ぶ「論理」

しまだ やすゆき  
島田 康行

筑波大学人文社会科学系教授。元文部省教科書調査官。専門は国語教育学。高大接続の研究や、ライティング教育などに携わる。著書に「書ける」大学生に育てる、「ライティングの高大接続」(共著) などがある。

## ■よりよく生きるために

事実根差して、誰にとってもわかりやすい筋道で、お互いの考えを伝え合うことが、私たちの社会を支えているはずだ。この社会に参加するものは、そのことを知り、この社会の成り立ちを脅かそうとするものに、立ち向かってゆかねばならない。それが実現されない場所では、論点はすり替えられ、強弁がまかり通って、弱者は虐げられる。誠実に答えるとはどのような態度をいうのか。丁寧で説明するとはそもそもどのようなことか。

論理的に考え、表現する力が、よりよい社会を作り、よりよく生きるために大切であることに、異を唱えるものはあるまい。その力を育むことが「国語科」の大きな役割の一つであることも一貫して認められてきた。全国の教室で真剣な取り組みが続けられてきたはずだ。

それは十分だったか。TVモニターが日々映し出す、この社会の行く末に関わるやり取りは、生徒の目にはど

のではないか。

学習指導要領に目を転じよう。「話すこと・聞くこと」の指導事項には次の一項がある。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

「論点」という概念を理解することは、話合いを成立させるうえで不可欠である。「論点」の意味が理解されはじめて、反論とは何か、反論になっていないとはどういうことも理解できる。

また「書くこと」の指導事項には次の一項がある。

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

情報の信頼性を吟味すること、主張を支える根拠としての妥当性を検討することの大切さは、主体的な、たとえば探究的な学習の場面でこそ実感されるだろう。

ちなみに「話すこと・聞くこと」には二〇〜三〇時間程度を、「書くこと」には三〇〜四〇時間程度を、と各領域に配当する時間を示したのも新しい学習指導要領の特徴だ。これに対して「読むこと」に配当する時間は一〇〜二〇時間程度。この科目がどのような学習に重点

う映っているのか。

まだ間に合う、と信じていたい。以下、新科目「現代の国語」「論理国語」で育成が目指される「論理」について確認する。

## ■必修科目「現代の国語」

「現代の国語」は「実社会、実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目」として設計され、たとえば次のような「言語による諸活動」に必要な力を育成することとされている。

- ・ 目的に応じて多様な資料を収集・解釈し、根拠に基づいて論述する活動
- ・ 根拠を持って議論し互いの立場や意見を認めながら集団としての結論をまとめる活動

まず、こうした活動が、よりよく生きるために大切なのだと、その意義を認めるところから始めてはどうか。ごく身近な事どもを例に、実感してもらおうことができる

をおいているかは明らかだ。

新しい枠組みの「知識及び技能」には「情報の扱い方に関する事項」が設けられ、そこに次の一項がある。

ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。

「論拠」とは「主張がなぜ成り立つかを説明するための根拠と理由付けのこと」と説明されている。近年、義務教育においては、主張、根拠、理由付けの三者の関係を的確に捉えようとする学習が、「三角ロジック」などの名称で、急速に広まっている。こうした学習を経験して高校に入学する生徒たちが年々多くなるはずだ。

高校ではその理解を着実なものにすることになる。同じ根拠に基づきながら、理由付けの仕方によっては正反對の主張さえ導かれ得るという構造を理解し、その筋道を吟味することの大切さを理解しなければ、実社会で様々な不利益を被ることにもなりかねない。

## ■選択科目「論理国語」

この科目の目標には次のようにある。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。

「批判的に考える力」の育成が目指されている。「批判的」という語は、今回、中学校の学習指導要領にも初めて現れた。その「解説」に拠れば「文章を批判的に読むとは、文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むこと」である。主張の根拠や論拠を吟味、検討する力の育成は、中学校からの一貫した流れと言える。また、こうしたプロセスによって新たな考えを創出していく力は、探究的な学習の基礎でもある。

この「批判的に考える力」に関しては、次のように指導事項に具体化されている。

ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。（読むこと）

ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。（書くこと）

「論理国語」の内容は「書くこと」と「読むこと」で構成され、「書くこと」の指導に五〇〜六〇時間程度、「読むこと」の指導に八〇〜九〇時間程度を配当することとされている。「論理的、批判的に考える力」を確実に身に付けるためには、論理的な文章を「読むこと」のみならず

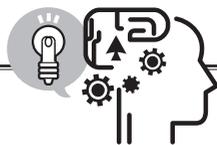
「書くこと」にも重点を置くことが不可欠だ。

論理的な文章を書くにあたっては、「知識及び技能」の「文と文章」に関する次の項目にも注目したい。

工 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。

「段落の構造」には、段落相互の関係に加え、「段落内部における文の組立て」が含まれる。一般に、論証を目的とする文章において、一つの段落はどのような種類や性質の文によって構成されるのか、それらの文がどのように関連しあっているのか、それらの文がどのようにして学ぶことについて、個々の文の内容や抽象度に着目して学ぶことが求められる。いわゆるパラグラフ・ライティングの手法である。多くの学術領域では、論文、レポートの文章にこの手法による記述が求められる。

この科目の指導事項にしばしば現れる「学術的な学習の基礎」とは「専門的な学習を始めるために身に付けておくべき基礎的な内容である」とされている。段落の構造の理解がその一つであることは言うまでもない。大学進学者にとっては、論証を目的とする文章を書くことが入学のその日から切実な問題となる。そのことを明確に認識して指導にあたりたい。



論理 × 他教科

## 「言葉のプロ」たる

# 国語教師の役割

わたなべてつじ  
渡辺哲司

文部科学省教科書調査官（体育）。  
専門は発育・発達学。「ライティン  
グの高大接続」（島田康行との共著）、  
「大学への文章学」などの著書があ  
り、論理的に書く力の育成について  
継続的に探究している。

■国語だけでは、国語でなければ担えぬこと

例えば「日本の大学新入生はレポートをうまく書けな  
い」という問題について、国語教師は世間からイの一番  
に責められる。レポートを書くとは、言い換えれば、言  
葉によって論理的に考え、表現すること。その力を培う  
べき場所は、現代日本の学校においてはまず国語の授業  
だから——という素朴な理由には抗えない。

だが実は、その問題の解決を国語科だけで担うことは  
たぶんできない。主因は高校までの学習と訓練の不足だ  
として、そのうち訓練にはかなりの時間と機会を要する。  
しかし、現代日本の学校において国語科は、授業のコマ  
数や人員の点で他教科と横並びの一教科に過ぎない。そ  
の条件下で古典など文学的・文化的な事項まで教えるの  
だから、到底、書いたり話したりする訓練を積むための  
時間や機会を十分に持っているとは思えない。

それゆえ、国語以外の教科の先生たちにもぜひ一肌  
脱いでもらいたい。具体的には、他教科の日々の授業  
の中に、書いて、話して、考えるような活動をより多く  
取り入れてほしい。そんなことは無理だ、と他教科の先  
生たちは言うかもしれないが、実のところ「やればでき  
る」ことを示す証拠には事欠かない。その上、そもそも  
知識を強固（試験が終わっても剥がれ落ちない程度）に身  
に付けるためには、生徒自身の言葉で書いたり話したり  
するのが良策であることを、誰もが経験的に知っている。  
よって、むしろ他教科こそが訓練の場としてふさわしい  
とも言えそうだ。

ただし、そうだからといって国語教師がすっかり肩の  
荷を下ろせるわけでは勿論ない。国語教師には、国語教  
師でなければ担えぬ特別な役割がある。それは、論理的  
に考え、表現する力を培うために学校で行われるすべて

の学習や指導を、言葉のプロとしてサポート／リードすること。そのように私が言う背景には、書いて、話して、考えるような実践に取り組もうとする他教科の教師たちが一様に抱く不安がある。すなわち、言葉の技術を教える力が自分にあると思えないこと。その不安と闘うために、彼らは、最も身近な「言葉のプロ」である国語教師の助けを必要とする。

#### ■「論じる」をキーワードとして

そうした国語教師ならではの「特別な役割」を果たそうとする際にカギとなる語は〈論じる〉であろうと私は考えている。論理的に考え、表現することに関わる言葉の技術は、すべて〈論じる〉という語によって整理・統合され、生徒や他教科の教師によりよく伝えられるように思う。

私が国語教師を「言葉のプロ」と呼ぶときの「言葉」には、論理的に考え、表現することに関わる多様な技術的事項が含まれる。具体的には、メモ、マップ、アウトライン等の作成、ブレインストーミングや相互批評、ディベートやディスカッション、パラグラフの作成、文章構成の型など。それらが小・中・高の教科書でひとつひとつ紹介されている教科は国語だけであるから、国語科の

段や過程として理解できる。論じることを目的とすれば、使う言葉も、語りの要素や順序も、自ずとある範囲に定まる。そうして定まったものが、そのまま書き方や話し方の指針となり、訓練の方法となり、できばえの評価基準となる。

そして、もう一つ見過ごせない点は、そのような論じる力を促成栽培的に培うことが不可能であることだ。書く技術は、知識として学び憶えただけでは力にならず、反復練習によって半ば自動化するぐらいに習得してこそ力になる。そのような訓練には相当の、たぶん国語科だけでは担えないほどの時間と機会を要する。

それゆえに、国語科のサポートとリードの下、全教科で日常的に取り組むことが必要だ。国語教師には、「言葉のプロ」の誇りと責任感をその胸に、〈論じる〉というキーワードをその頭脳に保持しつつ、論理的に考え、表現する力を培う教育のディレクター役を担ってほしい。他に代役はいないのだから。

#### ■自身の課題

最後に、分限を越えた主張の弁明として、自身の課題について述べたい。

私は、言葉の教育についてはアマチュアである。大学

範疇なのは間違いない。「あれもこれも」と思えば大変だろうが、それらの事項すべてが根差す一点あるいは統括される一つの原理さえ掴めば、心理的な負担も軽くなるはずだ。

そこで、それら言葉の技術的事項のすべてを統括する語あるいは概念として、私は〈論じる〉を提案したい。〈論じる〉とは、問いを立て、それに根拠をもって答えること。「問い」「答え」「根拠」という三つの要素が揃って、かつそれらが適切に結びついていれば、ひとまず論じることはできていると判断する。そのように、言語表現を覚えてメカニカルに捉える。

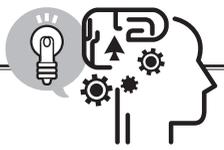
ちなみに〈論じる〉を構成する三要素の中でも「問い」を立てることは一番の要諦であり難所である。大学で新入生たちが「○○について論じなさい」というレポート課題に困惑するのは、もっぱら○○という大テーマの下に具体的な小テーマ（問い）を立てられないためだ。それと同じメカニズムは、卒業論文のテーマを求めて右往左往する大学四年生の中でも働いている。この難所を越えるには、与えられた問いに答えるばかりの学び／教えを脱却しなくてはならない。

それはともかく、実際、前記のような「言葉」に含まれる多様な技術的事項のすべては、よく論じるための手教師であった二〇〇六年に「書くのが苦手」な新入生を調べ始めて以来、日本の言語技術教育、特にその高校と大学とのつながり（の悪さ）を探究してきた（参考文献）。しかし、今では実際の教育の場＝教室から隔絶したところに身を置き、言葉の教育について何らの責任も権限も有していない。専門とする教科は「体育」であって、こちらの方で生活の糧を得ている。よって、言葉の教育については「巷のマニア」と言つてよい。

そんな私にもできることを——と考え、当面、次のような課題を自らに与えてみる。すなわち、中・高の国語専門ではない先生たちを「書いて、話して、考える」ような実践へといざなう情報パッケージの作成と発信。まずは不安を小さくして「やる気」と行動を引き出すことが肝要と思う。その先には、現在および近未来の日本の小・中・高・大として一般社会を貫く言語技術教育のありようを構想するという、特大のテーマもある。そうするとますます分限を越えてしまうが、どのみち専門の殻などに閉じこもってはいけぬ。埒の明かぬ「みんなの問題」の解決には、そのような蛮勇が役立つかもしれない。

#### 【参考文献】

渡辺哲司・島田康行「ライティングの高大接続——高校・大学で「書くこと」を教える人たちへ」ひつじ書房 二〇一七年



論理 × 漢文

# 冷静と情熱の「論理」

加藤 徹

明治大学教授。中国文学、京劇専攻。主な著書に『漢文力』『貝と羊の中国人』『絵で読む漢文』など。教科書収録教材に『漢文のすすめ―未来を考えるヒント』（新編国語総合改訂版）（国総347）がある。

## ■西洋の論理と東洋の論理

「論理」という言葉を初めて知ったのは、子供のころテレビで見たアメリカのSFドラマ『宇宙大作戦』だった。宇宙船の副長「ミスター・スポック」は、異星人と地球人のハーフだが、常に冷静で、地球人である船長に向かつてしばしば「非論理的です」と言う。以来、私の頭の中には、西洋の論理はクールだという先入観がしみついていく。

「ロジック」という近代西洋の概念に「論理」という訳語を当てたのは、幕末から明治にかけて活躍した啓蒙家の西周である。当時の日本人は、中国古典の造詣が深かった。「論理」「自由」「人民」「共和」「革命」など、中国古典の語を西洋伝来の概念の訳語として再利用した例は、非常に多い。

「論理」は、漢文訓読で読み下すと「理を論ず」となる。西洋の「ロジック」が形式論理的なクールなニュアーン

を顧みて他を言うの一段は、「諫説」と「論理」の漢文の好例である。紙数の都合で意識だけを紹介する。

孟子が齊の宣王に申し上げた。「王様の家来で、楚に出張した者がいます。友達に『妻子のことを頼む』と言って出かけたのに、帰ってきたら、妻子は腹をすかせて寒々とふるえていました。王は『そんな友達を捨てろ』と言った。孟子は続けて『管理職が部下をまとめられなかったら、どうしましょう』。王は『そんな管理職はクビだ』。孟子『では、国内が治まらなかったら？』。王『……』。答えにつまった王は、左右の側近と別の話をしてごまかした。

権力は強い。しかし、正論はもっと強い。絶対的な権力をもつ宣王も、一介の学識者にすぎない孟子に「論理」で攻められ、逃げを打つしかなかった。

## ■論理は弱い者の武器

漢文の「論理」は、為政者のものではない。むしろ目下の者や、弱い立場の人間が、正論を理路整然と論ずるという話が多い。論理を使えば、子供が大人をたしなめることもできる。『列子』説符第八に、こんな話がある。

齊の家老の田氏が豪勢な宴会を開いた。ごちそうが

ス帯びるのに対して、東洋の「論理」は堂々と正論を主張する、という熱いニュアンスがある。つまり、西洋の「論理」は「理」という内容に、東洋の「論理」は「論」という行動に、その中心があるといえる。例えば、司馬遷の『史記』李斯列伝には、

諫説論理之臣間<sup>ニ</sup>於側<sup>ニ</sup>則流漫之志<sup>ヲ</sup>誦<sup>ス</sup>矣。

とある。漢文訓読で読み下すと「諫説論理の臣側に間えば、則ち流漫の志誦く」。諫言し道理を説く臣下が君主のそばにひかえていれば、放漫な意見は引つ込む、という意味だ（「間」は、版本によって「開」「関」など別の字に作るが、「論理」という語の意味とニュアンスに影響はない）。

無理が通れば道理が引つ込むのは世の常だ。特に、古代中国の春秋戦国時代の乱世はひどかった。当時活躍した諸子百家には、「理を論ず」る熱い文章が多い。

『孟子』梁惠王章句下の「王顧左右而言他」（王左右

並ぶのを見て、一同は「天の恵みは手厚い。天は、われわれ人類のために五穀や魚や肉を生んでくれる」と感嘆した。数え十二歳になる少年が反論した。「天が人類のために生き物を作った、という考えはナンセンスです。人類は生き物の一つにすぎません。命に貴賤はありません。生命は、生存競争で食べたり食べられたりしているだけです。人類も、蚊や蚋に血を吸われたり虎や狼に襲われたりします。まさか天は、蚊や虎のために人類を作ったのでしょうか」。

『戦国策』の「蛇足」や「虎の威を借る狐」は、よく日本の国語教科書にも採られているが、東洋的な意味での「論理」の漢文だ。

「蛇足」は、原典の『戦国策』では戦争の話である。楚の筆頭大臣であった昭陽は、大軍を率いて魏の国に遠征し、勝利した。余勢を駆って、齊の国にも攻め込もうとした。齊は、弁舌家の陳軫に説得工作を依頼した。陳軫は昭陽と会見し、「蛇足」の故事を説き、齊と戦って勝利しても昭陽はこれ以上出世しようがないこと、これ以上の侵攻作戦は蛇に足を描くようなもので有害無益であることを説いた。昭陽は納得し、軍を引き返した。教科書では、前後を省略して蛇足の故事だけを紹介することが多いが、原文では、

舌先三寸の「論理」によって戦争を回避する話である。

### ■漢文のパラドックス

漢文には、西洋的な「論理」を説くものもある。

『韓非子』の「矛盾」は、原典では儒家の堯・舜礼讃の非合理性を批判するための説話である。「矛盾」は形式論理学の用語にもなっている。

『莊子』天下篇三十三には、莊子（莊周）の思想的なライバルであった恵子（恵施）の逆接的命題が列挙されている。「南方は無限であり有限である」「一尺の長さのムチを、毎日半分ずつ折ってゆくと、長さは有限でも作業には無限の時間がかかる」などは、古代ギリシアの「ゼノンのパラドックス」に通ずるものがある。

公孫竜子の「白馬非馬論」や「堅白論」は、存在と性質を抽象的に論じており、哲学的である。

### ■漢文訓読の文体

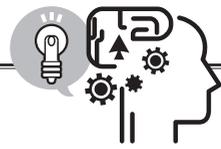
さて、私たち日本人の祖先は、漢文の論理を活用してきた。日本語は、古文も現代文も、敬語や役割語などきめ細かな補助表現が発達している。『古今和歌集』も『源氏物語』も現代のライトノベルも、抒情的な補助表現が豊かだ。そんな日本語でも、漢文訓読は例外で、補助表

現が整理されている。書き手の身分や性別、年配などに応じた補助表現を使わずに済む。古文でおなじみの「はべり」「たまふ」などの敬語も、「つ」「ぬ」「たり」「り」や「き」「けり」「けむ」といった時制的助動詞も、係り結びも、漢文訓読ではあまり使わない。より正確に言うと、平安時代の漢文訓読は、訓読みの比率が高く補助表現も豊かな柔らかいスタイルが主流だったが、江戸時代以降は、音読みの比率を高めて補助表現を整理した硬い漢文訓読が主流になった。

純粹論理の学問である数学では、「1+1=2」は「イチたすイチはニ」と読む。もし補助表現を加えて「イチとイチをたすとね、ニになっちゃうんですよ」等と読み下せば、論理的でなくなる。漢文訓読体の特徴はこの「イチたすイチはニ」のほうに近い。

幕末から明治にかけて、日本人が議論するときは、漢文訓読体を使うことが多かった。新生日本の進む道を論じた五箇条の御誓文も、「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」云々の漢文訓読体である。

論理は大事だ。ミスター・スポックのような冷静な論理と、漢文的な熱い論理の両方が必要だ。次代をなう生徒たちが、私たち大人をやっつけるくらい論理の力を身につけてくれることを、期待している。



論理 × 経済

## 論理と感情

■論理は感情への配慮をもたない

学問とは変わったものだと思うことがある。論理の正しさばかりを優先して、他のことは脇に置いている。その結論が心地よいかとか、誰かの怒りを鎮めるかといったことを、論理は考慮しない。論理それ自体には感情への配慮はない。

たとえば入試に落ちた学生が「どうして自分は落ちたのだろう」と言って泣いていたとしよう。それに対して「試験の点数が足りなかったから」「普段から勉強不足だったから」「そもそも高望みしすぎだったから」と論理的に正しく答えても、慰めにはならない。嫌われたり、喧嘩がはじまってしまっただけだ。

日常生活を円滑に進めることと、論理的な正しさを求めることは、必ずしも相性がよくない。たとえば共稼ぎの夫婦の家事の分担。半々ずつやる約束になっている。実際は片方がもう片方よりずっと多くやっている、とい

さかいとよたか  
坂井豊貴

慶應義塾大学経済学部教授。著書に『多数決を疑う』（現代文B改訂版上巻）『現B燃』収録、『決め方の経済学』ほか多数。投票制度やオークションなど、政治や経済のルールや決め方を研究している。

うのはよくある話だろう。こういうとき、やる側は往々にして、もっと家事をせよと相手に口うるさくは言わない。そんなことを日々言っていると、日常生活がギスギスするからだ。

約束を守らないのはダメだという論理は正しいものだろう。だがその論理を行為にまで転化させることが、日常生活に利益をもたらすとはかぎらないのが難しいところだ。

■論理の優先

それでは論理の正しさが価値をもつのは何に對してか。安全に関する判断はそうだろう。どれだけ毒キノコが美味しそうに見えても、体によさそうな気がしても、毒キノコには毒がある。食べると重篤な身体症状に見舞われたり、命を落としたりする。ビルを建てるときに柱の数を減らしたら、それで何となく大丈夫そうな気がし

でも、震度5で倒壊してしまふ。

論理的な正しさは、感情への配慮がないので、きれいなキノコが食べたいとか、柱を減らしても大丈夫そうといった、感情による失敗を防止してくれる。論理は感情的でないというきわめて独特の性質が、ここでは有益なのだ。

感情は投資の大敵でもある。たとえば株のトレードで相場が急騰していると、つい買いたくなる。熱くなってしまう、その祭に参加したくなる。だが熱くなつて買うときは、買った直後に相場が大崩れし、大損してしまうことが多い。

そうなる事態を避ける方策は、「急騰中はすでに乗り遅れなので買わない」というルールを設けておくことだ。これで勝ちのチャンスを逃すことはあっても、大負けは避けられる。大負けさえしなければ、次のチャンスで戦える。だから買いたい感情が高まっても、論理を優先して我慢する。

詐欺の被害に遭わないためにも論理は大切だ。まず、「うまい儲け話はやってこない」というのは、論理的には圧倒的に正しい。もしうまい儲け話があるならば、それを知っている人は、必ず自分でやるはずである。それを「これに出資すると高利率で戻ってきます（なのでお

金を払ってください）」のように持ちかけてくるのは、論理的にありえない。

たとえば昨年は「かぼちやの馬車」事件があった。「かぼちやの馬車」とはスマートデイズ社によるシェアハウスである。同社は「シェアハウスを建てて高い賃料を得ませんか」と甘い話をもちかけ、副収入を狙うサラリーマン等がそれに乗った。しかし実態はきわめて悪条件なもので、話に乗った者の多くが大借金を背負うはめになった。事件発覚後、スマートデイズ社は破産の手続きを進めている。

本当に儲かるのであれば、スマートデイズ社は、自分でシェアハウスを建てるはずだ。素人のサラリーマンにわざわざ建てさせる理由がない。被害者は、気の毒ではあるし、よほど同社の口車がかかったのかもしれないが、もう少し論理を大切にしたらほうがよかつただろう。

うまい儲け話がやってきたとき、人はそれを信じたくなる。感情が昂ぶりもする。だが論理的に考えて、そんな話がやってくるはずはない。だから感情を、論理で抑える必要がある。これは意志の力を要することで、そう愉しいことではない。

### ■感情の満足、論理による納得

とはいえ論理は常に感情と対立するわけではない。人間社会では、感情的には満足してもらえない相手に、論理で我慢してもらおうといったことが、よくある。要するに、論理的な説得でどうにか納得してもらおうわけだ。

たとえば日本の所得税は累進課税という、課税所得が増えるほど高い税率がかかる制度になっている。この制度を支える一つの理屈は、「裕福な人が一万円とられる痛みは、貧しい人が一万円とられる痛みよりも少ない」ことだ。一九世紀イギリスの哲学者ジョン・スチュアート・ミルによる、功利主義の論理による正当化である。

とはいえ功利主義の論理をもちだされても、裕福な人の高い税率や税額が減るわけではない。それでもその論理に一定の正当性を感じるならば、我慢しようという気になってくれもする。それなりに納得してくれるわけだ。感情の満足がファーストベストだとすれば、論理による納得はセカンドベストだろう。

納得にはふたつのよさがある。まずは、その人の不快が減ること。そして、その不快を減らすことにより、社会秩序の安定性が高まることだ。

社会には、さまざまな人間、さまざまな立場の人間がいる。政治はそれら無数の人々の利害を調整する。万人

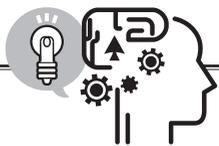
の利害が一致していれば話はラクだが、大抵のことはそうならない。だから政治には高い説明責任が求められる。説明は論理的でないと、不利益をこうむる立場の人は、納得できない。論理的でない説明をされても、理不尽な目に遭っていると腹が立つだけだ。

### ■論理を学ぶ意義

そしてこのことは、人間の感情が、理屈によって動くことを意味している。人は論理の通らないことをされると、腹が立つわけだから。

すなわち論理と感情の関係は、一筋縄ではない。家事の分担の話为例としたように、論理と感情は相反しうる。累進課税を例としたように、感情が満たされないうちに、論理で納得してもらおうという代替的なはたらきもある。そして理不尽を嫌うというように、論理の欠如が感情を駆動することもある。

論理を学ぶことがなぜ大切かといえば、それが人間と人間社会にとって、あまりにも重大なものだからだろう。そしてそれは、あまりにも一筋縄ではないから、十分に学ばねば適切に使えないものなのだろう。



# 文章作成における論理

さどしまさおり  
佐渡島紗織

早稲田大学教授（国語教育）。早大のライティング・センターなどで、学術的文章作成の指導に携わっている。「レポート・論文をさらによくする」「書き直し」ガイド（共著）などがある。

文章作成における論理は、文章が書かれる状況を広く考慮して学習させるべきものである。論理は、全体構成や、文と文との繋がり、主張に対する理由の適切さなど、文章を作っている要素に留まる範囲の話ではない。文章は、コミュニケーションの手段だからである。そこには、何かを成し遂げようとしている書き手がおり、その書き手には文章を通してどのような目的を遂行しようとするかの策略や意図がある。書き手の立場もある。そして、読み手は、名指しされたり多数の中の一読者であったりしながら、その文章を読む。読んで特定の行動を強いられる場合もあれば、味わったり疑問を呈したりしながらも内容を理解しておけばよい場合もある。その文章が、書き手の意図とは裏腹に別の観点で世に広まったり、書き手がこの世に居なくなったり後で何らかの役割を果たしたりすることがある。このように、ある文章は、あるコミュニケーション状況から生まれるのであり、またそ

のコミュニケーション状況の中で生きていく。そして、そのコミュニケーション状況には、多くの要素が複雑に絡みあっているのである。こうしたコミュニケーション状況を広く考慮して初めて、その文章の存在価値や適切さが判断できるはずである。文章作成における論理は、したがって、次の三つの層に整理することができる。

- (1) 書き手の表出における論理
- (2) 書き手と読み手の関係における論理
- (3) 読み手の解釈における論理

実際の学習例に沿って三点をみる。小学校高学年から高校までを想定した作文授業の例である。

**課題** 東京オリンピック／パラリンピックが近づいてきた。オリンピック／パラリンピックで心配される事柄

を一つ取り上げて論ぜよ。なぜその事柄が心配されるのかという背景を詳しく説明してもよいし、心配される事柄に対する対策を述べてもよい。

## (1) 書き手の表出における論理

この層では、書き手の思いや意図が言葉として表現される過程を問題にして学習をする。書き手が心から思っていることを文章にしようとしているか、書き手個人の体験や知識が反映されて主張が表されているか、使われている言葉が書き手の意図と合っているかなどを問題にする。

A君は、この夏、同居するおばあさんがつぶやいていたことを思い出し、暑さ対策を話題にしようと思った。「この夏は本当に暑かった。私は手すりにつかまらないうと階段が怖いのに、井上医院に上る階段の手すりが熱くてつかめなかつたのよ！」A君は、話題を決める段階でのグループ活動で、「僕は、おばあちゃんが言ったことを思い出したので、暑さを取り上げようと思う。」と発表した。すると、他のメンバーから次の助言があった。「暑さの問題は手すりだけではない。マラソンの道路に何か塗るといふニュースを聞いた。それは選手のためだ

けど。」「日本人もそうだけど、もっと涼しい国から来る観戦者に暑さがこたえるのでは？」「政府や東京都がすでに対策を練っているはず。調べてみては。」などである。そこでA君は、政府や都の取り組みをインターネットで調べた。また、国別の平均気温や熱中症になる条件などを調べて構想を練った。そして、次のように文章を書き始めた。

東京オリンピック／パラリンピックで心配される暑さと対策  
オリンピック／パラリンピックで心配される事柄の一つは、暑さである。ここでは外国から訪れる観戦者を特に取り上げて、事前にできる準備を提案する。

書き手の思いや意図は、日頃からその書き手が接している情報の量や質、あるいは実体験が反映されている。よい着眼点で文章を構想できる学習者、心から訴えていることが伝わってくる文章を書く学習者は、日頃から周りに対してアンテナを張っている学習者である。ニュースをよく観、多くの人とかわり、様々な体験をしながら、自己の意見を常に形成し塗り替えていこうとする学習者を育てる意識が重要である。特に、意見を書かせる場合は、社会の一員として責任をもって主張をさせるようにしたい。A君は、家族の発言から話題を発想し、さ

らに情報調査により、書く対象の範囲を定めた。

(2)書き手と読み手の関係における論理

この層では、書き手が、読み手や読み手がおかれている状況を考慮して文章を作成する過程を問題にする。

A君は、次のように書き進めた。

オリンピック／パラリンピックには、世界の国々から観戦者が訪れる。特に暑さが身にこたえるのは、日本より涼しい北国から来る人たちだろう。日本の八月の気温を経験したことのない国の人は、熱中症になりやすいだろう。そのような国から来る人たちは、帽子やサングラスを持参するかもしれないが、それで充分だと考えているかもしれない。日本の八月の暑さには、帽子やサングラスだけでは太刀打ちできない。この人たちにどうしたら熱中症にならないかを予め伝えるようにしたいものだ。例えば、日本の国際空港でちらしを配るという対策をとることができる。

授業では、今度は本文の内容や表現を練るために、三人で文章を回してコメントを書き込む活動をした。A君の文章には、次のコメントが書かれた。

コメント1 「日本より涼しい国から来る人たちがたしかに心配だね。例えばどんな国の人？」

射日光ばかりでなく、身体から熱を逃がす発汗の作用が鈍ることにあるからだ。だから、水分と塩分の補給が必要である。小まめに水分補給をし塩飴を舂めることを、英語の他にロシア語やフランス語で伝えた方がよい。空港や宿泊施設や会場で、そのちらしを配布してはどうだろうか。

【参考文献】

気象庁 (10/6) 「各種データ・資料」 <https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html> (二〇一八年十月二八日閲覧)

A君は、読み手の反応を受けて文章を振り返ることができた。資料にあたって調査をしたことで、内容が具体的に説得力が高まった。また理由を加筆して理解しやすい内容となった。コメントを付け合うこのグループ活動で、他のメンバーはいわば読み手代表である。読み手が感じた疑問や不足を知り文章を修正することで、書き手は読み手意識をみることがができる。

(3)読み手の解釈における論理

この層では、文章がどのように読まれ、扱われていくかを問題にする。

グループで感想を述べ合ったところ、オリンピック／パラリンピックの暑さ対策は、日本人にとって重要な

コメント2 「このちらしはいいね。どんなことをちらしに書くのかも提案できるとよいのでは？」

コメント3 「日本より涼しい国は、北国とは限らないから『日本より涼しい国』でよいのでは。」

コメント4 「帽子やサングラスだけでは太刀打ちできない。この人たちにどうしたら熱中症にならないかを予め伝えるようにしたい」という部分に飛躍を感じる。帽子やサングラスがなぜ熱中症予防にならないかの説明があるといい。」

月平均最高気温が、日本の八月の最高気温を大きく下回る国をA君が調べたところ、該当する国・地域は、ロシア、北欧、欧州の北よりの国、カナダなどであった。そこでこれらの国々の人々に通じる言語でちらしを作成する提案をしようと考えた。また、ちらしに水分と塩分の補給を勧める内容を提案することにした。

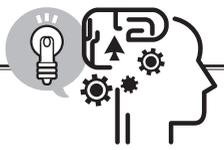
A君は、文章を次のように加筆修正した。

東京の八月の日最高気温の平均は、二〇一八年までの三年間の平均で31・5度である(気象庁、二〇一八)。31・5度よりも高い気温を経験しない国の人は、ロシア、北欧、ヨーロッパの北よりの国々、カナダなどである(同)。このような国から来る人たちは、帽子やサングラスを持参するかもしれないが、熱中症になりやすいだろう。熱中症の原因は、直

かりでなく、海外からの観戦者にとっては深刻な問題だ」という認識が確認された。そして、電車の社内放送や駅の案内板は中国語や韓国語が使われているが、この場合はヨーロッパ言語やロシア語などの表記が重要だという認識も生まれた。また、この文章は、学級内で読み合うだけでは社会に訴えることができないので、新聞に投書するか、東京都やオリンピック委員会に何らかの方法で伝えるかしたいという意見が出された。宿泊施設にも配るとよいという提案もなされた。

作文授業の実践報告では、最後にグループで感想を伝え合わせていることが多い。その際に、感想を伝え合うばかりでなく、それぞれの文章の活用法について議論させることも有効である。

文章作成指導における論理を三層に整理して述べた。三つの層は、文章作成指導の段階とも受け取れるが、実際には同時に進行する層である。(3)の誰に対して書くかによって(2)の内容や表現が規定される。あるいは、(2)で曖昧な内容や表現を加筆修正していくと(1)の主張内容や文章目的がより明確になることがある。このように、文章作成における論理は、コミュニケーション状況を広く考慮しながら分析して、初めて保証される。



# 「論理的に」を見える化したい！

いしはらのりこ  
石原徳子  
神奈川県立多摩高等学校

## ■はじめに

先日ご縁を頂いて、あるグローバル企業を見学させていただいた。日本人の割合は四四％。「多様な物の見方」を目指しても、個人あるいは同質性の高い集団での物の見方には限界がある。ならば、多様な人材をつなげようという、ダイバーシティ（多様性）の取組みが至る所で具現化しており、生徒とともに圧倒された。

新学習指導要領で「論理」が重視される理由がわかる気がする。「ダイバーシティ」は美しい言葉ではあるが、実際には違った価値観の人と協働しようとする、至る所で衝突する場面があるだろう。多様性をイノベーションにつなげるには、そして自分のアイデアを取り上げてもらうには、そこで十分な議論（に耐えること）が必要だ。議論の道具は言うまでもなく「論理」である。

価値観の違う「人」だけでなく、AIもすでに私たちの生活に溶け込み始めている。AIに使われるのではな

く、AIを使って仕事をしようとするならば、誤解のない表現や明確な因果関係を意識して表現すること（つまり論理）もまた、不可欠な能力となるだろう。「そういう時代」なのだ。本稿では、このような問題意識のもと「論理的に書く」ことをねらいとした実践を紹介する。

## ■論理的に書く（5時間扱い）

今年度、本校では複数の企業・大学・官庁のご協力を頂いて、高校一年生を対象に、冒頭のような「社会見学」を実施した。この機会を利用して、国語科では、訪問先で新たに知ったことや考えたことを「意見文」に書き、新聞の読者欄に投稿するという活動を提示した。

「書くこと」には二つの側面がある。一つは文章の構成、もう一つは内容であり、後者についての「指導」や「評価」は大変難しい。「複数の立場から考えて書く」「新しい視点で独創的な意見を述べる」というような漠然とした言葉ではなく、生徒の「知識・技能」として、「論理的

に書く」ための「見方・考え方」を指導したいと思った。

## 【第一次（一時間）】さまざまな角度から考えるとは

まず「多角的なものごとを見たり、考えを深めたりするとは、具体的にどういうことか」を考えるために、新聞のインタビュー記事を用いて分析した。記者が、最先端の研究者に話を聞いて、一問一答の形で研究内容を紹介するという記事である。対談やインタビュー記事は、内容が深まる質問が出るかどうか成功の分かれ道である。プロの記者は、どのような角度から質問しているのか。それを一般化できれば、個人で思考する場合にも、その観点で自問自答して考えが深められるのではないかと。たとえば、「人間拡張とはどういう研究ですか」という質問ならば、「定義を明らかにする質問」という風に、記事の中の八つの質問を抽象化した。さらに、「どんな相手にもできる質問」と「相手の言葉を受けて出た質問」があることも確認できた。

## 【第二次（一時間）】さまざまな角度から質問を考えてみよう

訪問先別にグループを作り、そこで質問すると仮定して、前次で抽象化した「質問」を具体化した。図書室で授業を行い、「定義」（研究の）動機・きっかけ」「研究の具体」「近い領域との比較」「今後の展望」「人間との関係」「疑義」（自分の理解したことについて）確認」「そ

の他」の質問をワークシートに記入し、想定される回答も（図書室の本やスマートフォンで調べて）記入した。わからない部分は当日質問することとした。

活動の中では、新聞社を訪問する生徒から「新聞に近い領域って何でしょう」、大学の研究室を訪問する生徒からは「高分子って何ですか」などと声をかけられた。前者には「新聞社は何をするところですか。ほかにそういう業務を行っているところはありますか」と「考えを深める道筋」を、後者には「キーワードで本を検索してみよう」と「調べる方法」の一つを示唆した。この対応によって、具体的な質問と抽象的な質問を行き来しながら、「思考を深める」過程をたどったことを自覚させた。ただ、もう少し細かな「質問」のステップが必要だったかもしれないと考えている。この後、生徒は社会見学に行き、実際に質問を行った。

## 【第三次（二時間）】意見文を書く

書き始める前に、文章の「設計図」を作成し、一度級友に話して聞かせ、わかりにくいところや論理の破綻がないかをチェックしてから書くこととした。「設計図」には一般財団法人SFCフォーラムの「論理コミュニケーション」のワークシートを用いた。このワークシートでは、まず「主張」を思いっくだき書き出し、「論拠」

と「事例」が挙げられそうなものを残すという手法をとる。「主張」は「べきだ」だけではなく、「を知った」「に興味がわいた」「を学びたい」「を知ってほしい」などでも良いとして、書き方を例示した。

#### 【第四次（一時間）】論理って？

「設計図」完成後、三〇分で四分の三程度の生徒が五〇〇字の「意見文」を書き上げた。設計図通りに書いているので、ルーブリックの「構成」はほとんど全ての生徒が「超いいね！（三段階中一番良い評価）」形式段落ごとに内容が整理されており、つながりもわかりやすいの評価だった。また、書いている内容そのものは、比較的面白いと感じられた。しかし「論理」の項目では、ほとんどの生徒が「いいね！（三段階中二番目）」主張に対して根拠と事例を挙げているが、一部論理が通らない部分がある」だった。

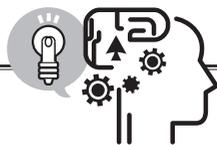
そこで、生徒にはこの評価を伝え、次の活動を提示した。「ここに挙げるのは、比較的良かった生徒作品です」と断った上で、グループで生徒作品を一作品ずつ、敬意をもって分析し、「論理の破綻があると思われる箇所」を発表する。「事例が主観的で、普遍的事実ではない」「事例が主張とずれている」「説明が省略され、飛躍している」などのほかに、「論理の破綻はないが、あえて主張する

ことではない」という指摘もあった。現状や前提を読者と共有するべきであるという指摘である。

この活動を経て、生徒には一旦作品を返却し、「論理のつながりを意識して、書き直したい場合は書き直しても良い」とした。再提出された作品は、主張が明確になったもの、根拠と事例の関係が丁寧に説明されたもの、課題となる現状について述べているものが増加した。

#### ■まとめ

今回は、具体的な記事や生徒作品を用いて、「思考を深めるとは？」「論理的に書くとは？」を一般化する試みを行った。もちろん、第二次で質問を考えようとして行き詰まってしまったように、実生活で応用しようとする、さらに工夫が必要になったり、自分の知識が足りなかったりして行き詰まることもあるだろう。今回の質問項目で「多角的な思考」を全て網羅できているというわけでもない。しかし、この具体から抽象を、抽象を具体にという往還が、すなわち帰納と演繹という「論理」にもつながる。具体的な教材の具体的な内容を「教える」のではなく、生徒が一般化した「見方・考え方」を知り、具体的な文章や実生活において活用できるようにすること、それが、次の指導要領で求められる「国語の授業」なのではないかと考えている。



論理 × 実践例

# 概念としての「ものの見方」を 意識した授業

にしむら さとし  
西村 諭

東京学芸大学附属国際中等教育学校

## ■ 視点を変える

本稿では、漢文教材を用いながら、論理的思考力を育むことをねらいとした実践を紹介したい。

授業の内容よりも、まずは生徒の作品を紹介する。

## 【生徒作品例①】

私たちの村に、見知らぬ人物が訪ねてきた。その身なりからして、この村の住人ではないことは明らかだ。私たちの住む村は、人に知られない山奥にある。私は生まれてから今まで、この村を一度も出たことがないし、村の人以外の人に会ったこともない。私はその漁師に尋ねた、「どこから来たのか」と。漁師は答える「武陵という村から来た」と。いやいや、そうじゃない、どの道を通ってこの村にたどり着いたのかを聞いているのだ。この村に来る道なんてないはずなのに……。

## 【生徒作品例②】

「項莊 殺人未遂容疑の疑いか」

○月△日の明朝、項王を裏切った容疑がかけられていた沛公が鴻門に訪れた。同日、酒宴が項王の陣地で行われ、そこで事件は起きた。項王側についている項莊が剣を抜き、剣の舞を踊り始めたのである。酒宴に出席していた侍女によると、「項莊様の剣の舞は非常に殺気があふれたものでした。実際には沛公様を殺そうとしていました」と述べている。また同じく席に出席していた侍女によると、「あの剣の舞は項王様を喜ばせるためのものでした。決して沛公様を殺すためのものではありません」とも述べている。真偽はわからないが、項莊は容疑を否認しており、現在も取り調べ中である。

今回の酒宴は非常に不可解なことが多く、招待された沛公が北向きに座り、項王は東向きに座っていた。なぜそのような席配置になったのかわからないが、筆者には別の深い意味が込められているのではないかと感じた。

また、警察の取り調べによると、項王の側近である范増が酒宴中に、沛公を殺す指示が込められた玉玦を何度も項王に示すところが目撃されている。また、その後、范増と項莊が話している目撃情報があったため、項莊の剣の舞も、范増による沛公を殺害する指示ではないかと疑われている。警察側は項莊および范増を事件の重要参考人として調査を進めている。

①は、「桃花源記」を村人の視点からリライトした生徒作品の冒頭部分、②は、『史記』「鴻門之会」を新聞記事にした生徒の作品である。いずれも漢文の定番教材で、授業実践の時期はそれぞれ高一の三学期、高二の二学期と別ではあるが、ねらいは同じである。そのねらいとは「視点を変える」というものである。

■実践① 「桃花源記」より

「桃花源記」では、迷い込んだ村で十分なもてなしを受けた漁師が村を去るときに、村人が漁師に向かって「不足為外人道也（外人の為に道に足らざるなり）」と語る。これについて、多くの参考書や指導書が、「不足」を「婉曲的な禁止」とし、「外部の人に話さないでほしい」「外部の人に話すほどではない」と訳している。そして、「外部の俗人がやって来ると、村の平和が破壊されてしまうので、この村の存在を言わないでほしい」という村人

理的思考力を働かせながら読み直し、その結果、村人に対するイメージのみならず、作品全体の色合いをもガラリと変えている例である。

■実践② 「鴻門の会」より

同じように、視点を変えることによって、多面的に状況を捉えさせる試みとして行った実践が②である。これは、「鴻門の会」について、特定の人物の視点から新聞記事を書かせたものである。字数は六〇〇字程度で、新聞記事の構成として見出しや掲載写真などに加え、結論を先に書くというスタイルを意識させた。紙幅の関係上、全体を紹介することはできないが、例えば次のような見出しと書き出しの作品例がある。

【生徒作品例③】

「護衛兵 未来の大王を救う」（見出し）

「沛公の参乗、樊噲という者なり」という一言が鴻門にある宴会場に響き渡った。項王の主催する宴会で、樊噲は彼の聡明さと度胸の大きさと、新しい王朝のリーダー候補の沛公を危機的状況から救い出すことに成功した。（後略）

この例は、樊噲に焦点を当てることによって、その場の臨場感を伝えるとともに、読者の関心を惹きつけることに成功している。

の気持ちを表している」と解釈する。実際に授業で生徒に発問すると、そのような解釈の答えが返ってくる。この解釈は間違っていないだろうが、いくつかの疑問が残る。例えば、次のような疑問である。

- ・この村のことを知られたくないなら、なぜこの村の情報を包み隠さず話したのか。

- ・漁師が帰るときに、無理矢理にでも引き留めて、村の外へ出さなければ良いのではないか。

- ・そもそも村人はなぜこの外部からの訪問者を追い返すのではなく、積極的に歓迎し、もてなしたのか。

そこで、この疑問を論理的に解決するために、村人の視点でリライトする実践を行った。その際、我々が見ているものは、視点を変えることによって正反対の捉え方ができる可能性があることを意識させた。「不足為外人道也」の部分について、冒頭に紹介した生徒作品は次のような記述となっている。

故郷に帰って、この村のことを話したければいくらでも話して構いませんよ。どうせこの村を訪れようとしてもムダですからね、うふふ。

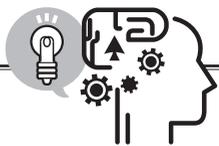
この生徒は、「不足」の語を文脈から考え、村人が外部の世界を避けているのではなく、むしろ超越している存在として捉えている。視点を変えることによって、論

当初は、「メディアとは何か」という探究的な問いのもと、「鴻門の会」から「四面楚歌」までについて、新聞そのものを作成する活動を計画していたが、時間の関係で今回は新聞記事作成のみとなってしまった。

■漢文教材の可能性

現在我々は、様々な情報手段によって、膨大で多様な情報を入手することができる情報化社会に生きている。それらの情報は、ある特定の視点から表現されている場合も多く、偏った伝わり方をすることも往々にしてある。したがって情報の受け手は、視点をずらしたり転換させることによって真実を見抜かなければならない。今回紹介した二つの実践は、そのようなスキルを身に付けることをねらいとしたものである。

漢文の授業は、どうしても句法の確認や現代語訳、内容把握に終始しがちで、解釈したものをアウトプットするところまで行うことは難しい。しかし、解釈に際して、すでに持っている知識と新しい知識とを関連づけるプロセスにおいてこそ、論理的思考力が育まれると考えられる。漢文は、その内容もさることながら、例えば「文化」「論理」「ものの見方」などといった概念のレベルで考えると、実に様々な解釈が可能となる教材にあふれているのである。



論理 × 豆知識

# もっと知りたい「論理」のこと

編集部

## ——論理にまつわる「豆知識」とブックガイド

国語科とも関係深く、現代においてますます必要とされている「論理」。ここでは、もっと論理について知るために、論理にまつわる豆知識と、それに関連した書籍を紹介します。

### 「論理」とは何か

「論理が大切」と言われることは多いと思いますが、そもそも「論理」とは何でしょうか。説明しようとするとなかなか難しいかもしれませんが、専門家や辞書などの説明としては、次のようなものがあります。

○「論理とは、主題や対象が変わっても成り立つ『構造』『方法』のことです。」(三浦俊彦『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる論理学』)  
○「ひとことと言えば『論理』とは、言葉が相互にもつている関連性にほかならない。」(野矢茂樹『新版

論理トレーニング』)

○「①思考の法則・形式。思考や議論を進めていく筋道。②ある事物間に存在する法則的な筋道。」(『明鏡国語辞典 第二版』)

「論理」とは、言葉や思考をつなぐもの、考え方の基礎となる法則のようなものといえるでしょうか。言葉を用いて考えを深めていく「国語」として、非常に重要な概念といえるでしょう。

### ブックガイド

論理的に考えるために

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』

(産業図書 二〇〇六)



論理的に読む・書く力を確実に高める練習問題が充実。独習用にも、授業のテキストとしてもオススメの一冊。

三浦俊彦『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる論理学』(日本実業出版社 二〇一〇)

論理学



論理学を学ぶためには、まず「論理」について知らなければならぬ。「ロンドンっていったい何？」ということをお突きつめて考える入門書。

野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』

(筑摩書房 二〇一八)



他人とわかりあうための力を身につける国語ゼミがここに開講！ 四人の登場人物たちと一緒に練習問題に取り組み、国語力を鍛えなおす。

野内良三『実践ロジカル・シンキング入門 日本語論理トレーニング』(大修館書店 二〇一〇)

実践ロジカル・シンキング入門



人を説得するためには、論理的な思考とレトリックの両方が必要不可欠。実践的なトレーニングをおし、日本語に磨きをかける。

仲島ひとみ／野矢茂樹 監修『大人のための学習マンガ それゆけ！ 論理さん』(筑摩書房 二〇一八)



「国語ゼミ」のキャラクターたちが再登場！ コミカルなマンガで、楽しみながら論理の大事なポイントが学習できる。

山下正男『論理的に考えること』(岩波ジュニア新書 一六五)



不思議の国のアリスや名探偵ホームズ、漢文の構文など、多様な例を用いて、論理的に考える方法を平易に解説する。

論理学の父

その名の通り「論理学」は、「論理」を扱う学問です。その歴史は古く、すでに古代ギリシアにおいて、哲学者アリストテレスらによって、三段論法などの形式的な論理が整理されていたといわれます。この功績から、アリストテレスは「論理学の父」とも呼ばれています。

日本における「論理学の父」としては、哲学者の西周が挙げられるでしょう。日本ではじめての論理学の入門書『致知啓蒙』（一八七四）を著し、論理学を日本に紹介しました。ただ、このときは「論理」に当たる「ロジック (Logic)」という言葉が「致知」と訳されていたようです。同年刊行の『明六雑誌 二三号』に掲載された「内地旅行」という西の講演録では、「論理」という言葉を用い

ており、この言葉は、彼によって用いられるようになってきています。

【参考】

・『明六雑誌』（本雑誌は、国立国語研究所のWEBサイト <https://www.minjal.ac.jp/> にて本文が公開されている。）



ブックガイド

論理学を知るために

ダン・クラインほか『ロジックの世界 論理学の哲人たちが

あなたの思考を変える』（講談社ブルーバックス 二〇一五）



アリストテレス、ライプニッツ、フレーゲ……。論理学の発展に寄与した世界の偉人たちとともに、論理学の歴史をたどる。

野矢茂樹『入門！ 論理学』

（中公新書 二〇〇六）

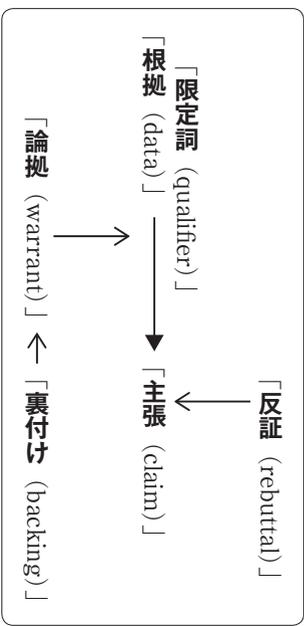


記号や式をほとんど用いず、日常の中の言葉を素材として、論理学の本質に迫る。軽快な語り口でつづられた、知的興奮に溢れる入門書。

トウルミン・モデルと三角ロジック

論理的な主張や議論をするために、どのようなことを気をつけねばよいでしょうか。このようなことを考えるのに有効なモデルとして「トウルミン・モデル」というものがあります。これは、イギリスの哲学者ステイブン・トウルミン（一九三二―二〇〇六）が提唱したモデルで、論証の構造を六つの要素に分けて整理したものです。左のように図示することができます。

このモデルにおけるポイントの一つは「論拠」です。これは、「主張」と「根拠」がどのようにつながるかを示すものです。日常の話し合いなどでは、明言されないことも多いため「隠れた前提」とも言い換えられます。たとえば、「今日はとても暑い（根拠）」↓「水分をた



くさん摂ったほうがよいだろう。（「主張」と述べるとき、そこには「暑いと汗をかいて、水分が不足する。」という「論拠（隠れた前提）」があると考えられます。当たり前のようですが、他人に自分の考えを正しく伝える上で、注目したいポイントです。

また、主張や議論の不確かさに注目しているのもこのモデルのポイントです。主張全体の確かさを示す「限定詞（おそらく、たぶん）」、「論拠」を補足する「裏付け」、「主張」が成り立つための保留条件としての「反証（〜でない限りは）」などを要素として取り上げているのが特徴です。

また、このモデルを簡略化し、「主張」「根拠」「事実」ともいう「論拠（理由付けともいう）」の三要素を取り出して整理した、「三角ロジック」という考え方もあります。

新学習指導要領には、「論拠」「理由付け」といった言葉が出てきていますし、「三角ロジック」は、中学校の国語教科書でも取り上げられています。今後さらに注目される考え方だといえるでしょう。

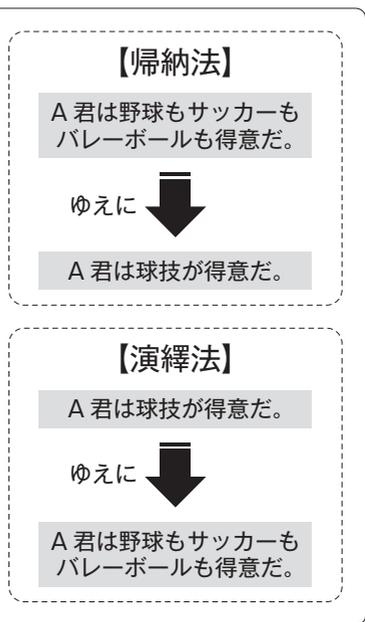
帰納と演繹の落とし穴

論理を考える上で欠かせない「演繹」と「帰納」。推論の方法として基本的なものではあるのですが、それぞれ落とし穴もあります。

たとえば、「演繹」は、一般的な前提から個別の結論を導く推論で、厳密な論理に従って考えていけば、前提から妥当な結論を導くことができます。ただし、もともとの前提が間違っていると結論も間違えます。前提を鵜呑みにせずしっかりと吟味することが大切です。

一方の「帰納」は、個々の具体的な事例から一般的な結論を導き出す推論で、個々の事例と結論の間に、多かれ少なかれ、飛躍があることは避けられません。前提となるようなものが存在しない新しい知見を得るために有

効な方法ではあるのですが、「〜である」ではなく、「〜だろう」としかいえないことに注意が必要でしょう。



ブックガイド

論理的に主張するために

福沢一吉『新版議論のレッスン』

(NHK出版新書 1010)



スポーツなどと同様に議論にもルールがある。ツールルミン・モデルをベースとして、議論の論理的構造を吟味する。

戸田山和久『新版論文の教室 レポートから卒論まで』

(NHKブックス 1011)



論文の構成のしかたや、論証のテクニックとしての帰納と演繹など、論理的に文章を書くためのノウハウを、軽妙な語り口で解説する。

論理パズルに挑戦！

論理的に考えることで答えを導く論理パズル。特に有名なもの一つとして次のようなものがあります。

【正直村とうそつき村】

あるところに分かれ道があり、片方は必ず正直な村としか言わない村人の住む正直村に、もう片方は、必ずうそしか言わない村人の住むうそつき村へと続いている。そこに正直村へと向かう旅人がやってきたが、どちらが正直村へと続く道かわからない。さらにそこに、どちらかの村から村人がやってきた。

この村人に一度だけ質問ができるとすれば、正直村にたどり着くために、どのような質問をすればよい

ブックガイド

論理的に解くために

小野田博一『論理パズルBEST100 シンプルな問題から超絶難問まで厳選！』

(PHP研究所 1015)



演繹パズル、論理学のパズル、真偽パズル…。古典的名作から芸術的異色作まで、論理パズルの傑作を100問収録。

徳田雄洋『論理的に解く力をつけよう』

(岩波ジュニア新書 1013)



論理学、数学、経済学など、様々な分野から選ばれた問題を収録。二つの原則にもとづいて考えることで、「論理的に解く」力を身につける。

○「こちらの道が正直村への道ですか」という質問に、あなたは「はい」と答えますか。

いかがでしょうか。解答の一例を示しますと次のようになります。

「うそつき村か。ただし、質問は「はい」か「いいえ」で答えられるものに限る。

この質問で、どうして正直村にたどり着けるのでしょうか。また、ほかにもよい質問の仕方はないでしょうか。ぜひ、いろいろと考えてみてください。

今回の「論理」特集、いかがでしたでしょうか。最後に、本特集にご寄稿いただいた先生方の著書を紹介します。これから論理的に考え続けていくためのヒントが満載です。

新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

(東洋経済新報社 二〇一八)



大規模な学力調査により、中高生の読解力の実態を暴く。AIがライバルとなる時代において、人間がすべきことを「読解力」から考える。

渡辺哲司・島田康行『ライティングの高大接続 高校・大学で「書くこと」を教える人たちへ』(ひつじ書房 二〇一七)



高校と大学との間に断絶や重複のあるライティング教育。豊富な実証的データとその分析にもとづき、両者の新たなつながりを模索する。

加藤徹『漢文力』

(中公文庫 二〇一七)



漢文の中で展開されている古人の思索を追体験することによって、人生を切り拓き、明日を生き抜くための「漢文力」を身につける。

坂井豊貴『多数決を疑う 社会的選択理論とは何か』

(岩波新書 二〇一五)



多数決は本当に国民の意思を適切に反映しているのか。多数決への疑問から始めて、さまざまな意見の集約方法やメカニズムを考察する。

佐渡島紗織ほか『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』(大修館書店 二〇一五)



もっと論理的に、もっと伝わるように……。アカデミック・ライティングの指導者たちが、レポート・論文の自己点検法を具体的にレクチャーする。

# 追跡レポート 入試改革

## 「大学入学共通テスト」 平成三〇年度試行調査（プレテスト）について

文責 編集部

二〇一七年一月に続き、二〇一八年一月に、二回目となる試行調査（プレテスト）が行われました。その概要をご紹介します。

二〇二二年一月には、「大学入試センター試験」（以下、「センター試験」）に替わって、第二回目の「大学入学共通テスト」が行われる予定となっている。その実施に向けた準備として、二〇一七年一月には、「平成二九年度試行調査」（以後、「第一回試行調査」）が、そして、二〇一八年一月には「平成三〇年度試行調査」（以後、「第二回試行調査」）が行われた。この第二回試行調査の「国語」の実施概要は次のとおり。

第一回試行調査との共通点としては、次のような点があげられる。

- ・試験時間一〇〇分（現行のセンター試験は八〇分）。
- ・全体が大問5問で、第1問～第3問が現代文及び実用的な文章、第4問が古文、第5問が漢文。
- ・第1問が記述式設問。
- ・複数の資料を比較して答える設問が含まれる。
- ・資料をめぐる生徒の会話文や、生徒の作品例など、生徒の学習場面を想定した設定がみられる。

一方で、第一回との違いとしては、次のような点があげられる。

- 【名 称】 大学入学共通テスト 平成三〇年度試行調査
- 【実施日】 二〇一八年一月一〇日（土）
- 【協力校数】 一八五一校
- 【受験者数】 八万四四四四人（高校二、三年生対象）
- 【実施時間】 一〇〇分
- 【問題構成】 大問5（小問各3～6）

- ・問題文の分量が減少。全体で約二〇〇〇字減。
- ・第1問の記述式設問は、実用的な文章ではなく、論理的な文章が素材となった。
- ・全体に難易度がやや低くなり、現行のセンター試験に近い設問も増えて、取り組みやすくなったと考えられる。

\*試験問題は「大学入試センター」のHPにて公開されています。

以下、大問ごとに概要と特徴をまとめる。

## 第1問 現代文 論理的な文章(記述式)

「まことさんが『ヒトと言語』についての探究レポートを書くときに参考にしたもの」として、【文章Ⅰ】鈴木光太郎『ヒトの心はどう進化したのか』と【文章Ⅱ】正高信男『子どもはことばをからだで覚える』の二つの文章が提示され、比べて読みながら記述式の問いに解答するというもの。

第一回試行調査では、ここで実用的な文章が素材とされていたが、今回は、言語を主題とする複数の論理的な文章となった。「大学入学共通テスト」の「問題作成の方向性」(平成30年6月)によれば、記述式の問題は、実用的な文章、論理的な文章、そして、その両方の組み合わせ、という三パターンの出題の可能性があるとされる。

問1は、【文章Ⅰ】内の傍線部を三〇字以内で説明するという、オーソドックスな設問。問2は、【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の関係をふまえて整理したノートの空欄を、四〇字以内で補充するという設問。問3はさらにもう一つの文章(川添愛『自動人形の城』)も示され、三つの文章をふまえて二〇〇字以内で指定された条件を満たしながらまとめる設問。

なお、各小問に対しては、下図のような段階表があり、第1問全体に対しては、総合段階表が付いていて、A～Eの五段階で自己採点ができるようにになっている。

問3の段階表

問3	正答の条件				
	①	②	③	④	⑤
a	<input type="checkbox"/>				
b	<input type="checkbox"/>				
c	<input type="checkbox"/>				
d	<input type="checkbox"/>				

総合段階表

問1, 問2 (順不同)	a, a	C	B	A
	a, b	D	C	
	a, c			E
	b, b	D	C	
	a, d			C
	b, c	D	C	
	b, d			D
	c, c	D	C	
	c, d			D
	d, d	d	c	
問3				

右の段階表を見て、各問の正答の条件をどの程度満たしているかによってa～dの段階を判断し、それを上の総合判定表に当てはめて、A～Eの総合段階を判定する。

## 第2問 現代文 実用的な文章・論理的な文章(マークシート式)

著作権についてまとめたポスター(資料Ⅰ)を示し、その作成に用いた著作権法の抜粋(資料Ⅱ)と、著作権について書かれた論理的な文章である名和小太郎『著作権2・0 ウェブ時代の文化発展をめざして』(文章)を読んで解答するもの。

法令文の条文が出題されたことは新テストの方向性を明確に示しているが、条文自体は参考程度の扱いとなっている。小問の内容としては、【文章】の中から漢字問題(問1)、傍線部の説明(問2)、【文章】全体の趣旨(問3)や表現(問5)など、従来の評論の読み取りに近いと考えられる設問が見られた。

## 第3問 現代文 文学的な文章(マークシート式)

吉原幸子の詩「紙」とエッセイ「永遠の百合」を関連させながら読んで設問に答えるもの。

第一回試行調査では、文学的な文章として、原典とそれをふまえて創作された小説作品が素材になっていた。今回は小説ではなく、同一の作者による詩とエッセイが出題されたことが特徴である。複数のテキスト(作品)を比べながら読むという方向性はより鮮明となった。小問の内容は、語句の意味(問1)、作品中の表現についての説明(問2～5)、作品の修辞技法や表現全体の特徴についての説明(問6)などとなっている。

### 【資料Ⅰ】

### 著作権のイロハ

著作権とは(著作権法第二条の1より)

①「思想または感情を表現したものの  
②思想または感情を「創作的」に表現したものの  
③思想または感情を「表現」したものの  
④「文章、学術、美術、音楽の範囲」に属するもの

著作物の例	言語	音楽
	・小説 ・脚本 ・講演	・楽曲 ・楽譜を伴う歌謡等
美術・美術工芸	美術	地図・図形
・ダンス ・日本舞踊 ・振り付け	・絵画 ・彫刻	・学術的な図表 ・図表 ・立体模型

著作権の例外規定(権利者の了解なくして著作権を制限できる)

(例)市民楽団が市民ホールで行う演奏会

【例外となるための条件】

a

### 第3問・問6

問6 詩「紙」とエッセイ「永遠の百合」の表現について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は詩「紙」の表現に関するものである。文中の空欄a、bにふさわしい語句の組合せとして、最も適切なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答用紙はa、bに記入して、

対比的な表現や a を用いながら、統一感にみられる思いを b に投影している。

① a 対照的 b 対照的  
② a 対照的 b 対照的  
③ a 対照的 b 対照的  
④ a 対照的 b 対照的

第4問・問5

生徒 先生、このかかれとじもという箇所をなぞすだけ、現代語に訳しただけでは意味がつかないんです。どうも  
 教師 そうですね。

生徒 たらちほかかれとじもはなまの我が別業をなすやありけり  
 という源朝の歌に基づく表現だから、この歌を知らないと分かりにくかったらうが、古文には引き合いで  
 有名な和歌の一部を引用して、人物の心情をよかに表現する技法があるんだ。

教師 そんな技法があるんですか？

生徒 源朝の歌が詠まれた経緯については、「源朝」という歌集が詳しい。歌の右欄は、  
 なにくといひありしはに、住まつしはのの、おれおはしまし、あはむをををを、あはむがなを  
 なし、歳人の頭の中をなとひひて、夜経難仕まつりて、「若かりながら世に交はらしめて、にはかに、葉  
 の人にも知らせて、比喩に上りて、訓下ろし得りて、思ひ得りしも、さすがに、歳どののとは、心に今が  
 叶得り得ぬ  
 と、歌が詠まれれば況が書かれていたよ。

生徒 あこまでか、と、源朝のつながりも思えてくる感じがします。

教師 それでは、歌が詠まれた経緯も踏まえて、源朝の和歌と源氏物語の得意、それそれについて  
 みんなで意見を述べよう。

第4問 古文(マークシート式)

『源氏物語』「手習」巻の一節からの出題。第一回試行調査では同じ『源氏物語』の異本関係が取り上げられていたが、今回は原文中の傍線部に対する生徒と教師の会話文が示された。学習場面をイメージさせるような会話文を提示するパターンは、前回でもみられたものである。

各小問では、登場人物の心情を問うもの(問1)、語句の意味を問うもの(問2)などに加え、傍線部の解釈に関する会話文の続きを考えさせる設問(問5)が出題された。

第5問 漢文(マークシート式)

金谷沢訳注『莊子』の現代語訳の一節(【文章I】)と劉基『郁離子』の一節(【文章II】)を読み比べて問いに答えるもの。いずれも、猿飼と猿のやりとりについて取り上げたもので、複数の資料を比べながら読むという形式は、第一回試行調査と同様である。

各問では、漢字の意味を問うもの(問1)、返り点・送り仮名と書き下し文の組み合わせや現代語訳を問うもの(問2・問3)、原文の解釈を問うもの(問4)が出題された。また、問5は生徒と教師の会話文の形式で、【文章I】と【文章II】を比較するやりとりが示され、空所補充をさせるものとなっている。

第5問・問5

問5 次に掲げるのは、授業の中で【文章I】と【文章II】について話し合った生徒の会話である。これをよんで、後の問いに答えよ。

生徒A 【文章I】のエピソードは、有名な故事成語になつていたりする。

生徒B それで何だつたか。

生徒A そうう、もう一つの【文章II】では、面白いの取方があるんだけど、【文章I】と【文章II】では、何が違つたんだか。

生徒B 【文章I】では、面白いの取方は言葉で語を練っているね。

生徒A 【文章II】では、面白いの取方はもてを往かせているよ。

生徒B 【文章I】では、面白いの取方は何が決められているの？

生徒C 【文章II】では、【Y】が生命の分かれ目だよ。これと面白いの取方と関係が深まったよ。

生徒B 【文章II】の最後で面白いのは、【Z】とついでに、よ。

生徒A だからこそ、【文章II】の面白いの取方は、其の相割せん、というところに、面白がる。

## コトバのひきだし

—ふさわしい日本語の選び方

第1回

## あわや・本音があらわに？

人との付き合い合いというのはなかなか気を使うもので、趣味とか食べ物の好き嫌いとか、むりやり合わせたり、興味のないことでも関心があるように装ったり、苦勞することもありますね。

たとえば、プロ野球のひいきの球団。相手に合わせようとして、思わぬ展開になることも——。

「私は子どもころからの巨人ファンでね、つい熱くなっちゃうんだよ。きみはどこのファン？」

「も、もちろん、ジャイアンツファンですよ。野球は巨人、決まっているじゃないですか」

「そうか、そうか。そりゃ、気が合うね。巨人ファン同士となると、商談もスムーズに進みそうだね。ところで、昨日の巨人—阪神戦、見た？ 惜しかったねえ。いい試合だったんだけど、延長戦の末、引き分けたもんね」

せまね  
関根 健一  
けんいち

●読売新聞東京本社編集委員。日本新聞協会用語懇談会委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なぜなに日本語」(三省堂)、「ちびまる子ちゃん」の敬語教室(集英社)など。

「まったく、もう少しのところで……残念でしたね」  
「ほらほら、九回裏の巨人の攻撃、ツーアウト満塁で、すごい当たりだったのになあ。ファウルになっちゃって」

「そうそう、あれ、あわやホームランかと思いましたが」

「うんうん、そうそう、あわやね、えっ、あわやホームランだって？ きみー、ホントは巨人ファンじゃないな！」

\*

「あわや」は、目の前に迫った危険を寸前で回避したときに思わず発する言葉に由来します。「あわやぶつかりそうになった」「あわや大惨事となるところ」など、好ましくないこと、そうなるって欲しくないことが起こりかけたときに使われる副

詞です。つまり、「あわやホームラン」は、ホームランを好ましくないことと捉えた言い方になります。「ホームランになるところだったけど、ならなくてほっとした(巨人に点が入らなくてよかった)」という気持ちがあるいは、本当に巨人ファンだとしても、「あわや」を使った以上、アンチ巨人かと誤解されても仕方がないともいえます。

「あわや」は、「もう少しのところまで」といった中立的、客観的な意味を表すだけでなく、「そうやって欲しくない」という発話者(書き手)の気持ちが込められている言葉なのです。『明鏡国語辞典 第二版』にも「幸運や成功についていうのは誤り」とあり、「あわや記録達成というところまで失敗する」の誤用例が載っています。

ただし、誰かの幸運・成功が、ほかの誰かを悔しがらせたり、落ち込ませたりすることは世の習い。逆に、他人の不運・失敗に得たりとほくそ笑む輩もいるのもご承知の通り。「あわや」が適切かどうかは、人により、立場により、変わってきます。ときには、発した者の隠れた思い、立ち位

ふさわしさを考慮して伝え合うためには、「語彙の引き出し」をいっばいにし、きちんと整理しておかねばなりません。新学習指導要領でも、小学校から高等学校まですべてにわたって、「語彙を豊かにすること」と締めくくられる項目が入りました。たとえば、高等学校(「現代の国語」)では、「話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること」とあります。やみくもに語彙の量を増やすのではなく、文章の目的や対象になかった語彙を選択できる力、表面的な意味だけでなく、与える印象や細かな用法の違いを意識して使えるセンス、といったことが求められているのではないのでしょうか。

「あわや」や「当たり年」のように、ある価値観や、プラスもしくはマイナスの方向性が潜んでいる言葉の存在に気づき、類語を探したり、別の表現ができないか工夫したりすることは、語彙を豊かにするきっかけになるはずで

「もう少してホームランだった」は、攻守どちらからも使えます。守る側とそれを応援する観客

置をあらわにしたり、いらぬ誤解を与えてしまったりすることもあるでしょう。

\*

文化審議会国語分科会は二〇一八年三月、「防犯対策のための言語コミュニケーション(報告)」をまとめました。そこでは、言語コミュニケーションで考慮すべき要素の一つに「ふさわしさ」を挙げています。言語コミュニケーションの障害となるのは、意味の取り違いや、語形の誤り、文法的な規範の逸脱ばかりではありません。文法的に正しくても、ある価値判断を含む言葉をそれと意識せず利用するのは、「ふさわしさ」に欠けます。「そうやって欲しかった」ことが実現せず、がっかりしている相手に対して、「あわや…だったね」と声をかけるのは、ふさわしいとは言えません。

報告では、「台風の当たり年」を例に挙げています。本来、作物がたくさんとれる年を指す「当たり年」を、農業にも大きな影響を及ぼす台風の数の多さに用いるのは、比喩表現として適切かどうか。迷惑を被った人たち、被害に苦しむ人たちの心情を傷つけるおそれもあります。

のほっとした気持ちを表すのが「あわやホームランだった」です。「危うく」「危なく」にすると、もっと危機感が伝わるでしょうか。同じ状況を、攻める側の切ない思いを代弁するなら、「もう一息で、ホームランだった」「惜しくもホームランにならなかった」となります。

\*

「まいったな、筋金入りの阪神ファンとしては、巨人びいきのふりをするのは至難の業。あの部長もしつこいのなんの。やっと、解放されたよ」「やっと、で悪かったね」

長い時間をかけて実現することについて用いる副詞が「やっと」です。それが実現することを期待する思いが含まれています。

では、「大災害の全貌が明らかになり、最悪の事態がやっと判明した」は、どうでしょうか。全貌判明は期待されていたとはいえず、それが最悪の結果だったとしたら…。「ふさわしさ」の視点から考えてみてください。

### 六草いちか著 大使夫人にこそり聞いた 失敗しないヨーロッパ式マナーブック

四六判・並製・二二六ページ  
定価 本体一六〇〇円十税



評者 加納弘一

誰かの自宅に招かれた際、あなたはいつ頃伺うのがよいと思うだろうか。約束の5分前くらい？

実はそれはヨーロッパではマナー違反であり、正解は約束の5分後だ、という。本書は、森鷗外「舞姫」エリスのモデルを特定して名を馳せた著者が、在

独日本大使夫人の協力を得て、真の意味で世界に通用するマナーについて語り下ろしたものである。常識としてわかっているように実際には異なることの多い本場の様々な生活上のマナー

が、図解付きで解説されている。のみならず、そのマナーの存在理由、文化的な背景にまで踏み込んだ記述がとてもおもしろい。読み物として単なるマニュアル本を超えている。著者の軽やかな語りの中に、マナー・エチケットの精髓を感得させる本は他に得難いだろう。

ヨーロッパ文化、日本との比較文化という観点から興味深く読めるが、充実した3種類の索引があり、普段の生活にもすぐに役立つ。プレゼントとしても喜ばれそう。

ヨーロッパ文化、日本との比較文化という観点から興味深く読めるが、充実した3種類の索引があり、普段の生活にもすぐに役立つ。プレゼントとしても喜ばれそう。

### 秋岡英行／垣内智之／加藤千恵 著 煉丹術の世界 不老不死への道

四六判・並製・二六四ページ  
定価 本体一七〇〇円十税



評者 荒澤 剛

永遠の生命を手に入れたいの思いは、誰も抱いたことがあるだろう。だが、われわれはそれを実現不能な夢想として、即座に葬り去ってしまうのだ。

否、そうとは限らない。秦の始皇帝は、東海の仙人から不死の仙薬を得ようと画策した。その試みは失敗に終わるが、仙人がこの世の存在であるならば、不死の霊薬もこの世の材料を用いて作り出すことができるはずである。ここに煉丹術の誕生を導く一本の道筋が開かれた。

各時代を代表する煉丹術書の

具体的な内容については本書の解説に譲るとして、興味深いのは煉丹術を貫く基本的な理念である。一つは気の思想である。根源的な宇宙の気を撰取することにより、人は不朽の存在になりうるのだという。いま一つは懐胎のイメージである。丹の煉成過程は十か月の懐胎期間になぞらえられる。丹とは、すなわち不死の嬰兒であるのだ。

随所に引かれる現代語訳によって、いまだ邦訳のない幾多の煉丹術書の内容にじかに触れることができるのもうれしい。

### 中井延美 著 必携！日本語ポランテアの基礎知識

A5判・並製・一二八ページ  
定価 本体一四〇〇円十税



評者 外田雅宏

本書は日本語ポランテアのために必要な基礎知識やポランテアとして取り組む際の注意点、姿勢をまとめたものである。全4章構成で、第1章はポランテアで教えるための心構え、第2章は教える方法、第3章は教える際の教材について解説されている。そして第4章は日本語を外国語として教えるうえで、ポランテアであっても最小限これだけは必要だと考える文法項目が説明されている。

特に第1章では、「英語ができないから、日本語は教えられない

い」と言う人がいるが、実際は英語を話せるかどうかは必要絶対条件でも何でもないこと（4節）、日本語ポランテアの重要な役割は外国人参加者に「ことばで寄り添う」ことであること（5節）、母語である日本語を客観的に見直す姿勢が大事であること（7節、8節）など、興味深い主張がされている。

日本語教育への関心が高まっている昨今、ポランテア向けの入門書はほぼなかった中で、本書の刊行は重要な意味を持つだろう。

### あんびるえつこ 著 消費者教育ワークショップ実践集 すぐに使えるワークシート付き

B5判・並製・二二八ページ  
定価 本体二六〇〇円十税



評者 曾根寛子

「希少性」という言葉をご存じだろうか。人が欲しいと思うモノ（財やサービス）が十分に足りている場合、そこに希少性はない。しかし、不足して入手困難であるほど、希少性は光を放ち、そこに「価値」や「競争」を生む。需要と供給の関係で語られるこの概念は、経済活動の原動力になっている。

「期間限定」「Sレアもらえる」「90%OFF」「大特価」……。私たちの周囲は、希少性をアピールする言葉で溢れている。欲求にまかせて財布の紐を緩ませ続

けた先には、多少はあれど、借金地獄が待っている。二〇二二年から成人年齢が一八歳になるが、「未成年者取消権」で救われてきた消費における過ちも、一八歳になった瞬間に救われず、自力での解決を迫られる。

本書は、適切な判断力と責任ある行動力をもつ消費者を育てるため、幾度もの実践を重ねて磨き上げられた珠玉のワークショップ集である。自らの生活だけでなく社会をも豊かにする原動力となる消費者を、学校現場から送り出す大きな力となろう。

# News & Topics

国語・教育に関わる情報と  
授業に役立つ話題を集めました。

### 📖 教育行政関係

- 文科省、高等学校教科書検定基準の改正を告示 (9/18)
- 中教審WG、「評定」をなくし、「観点別評価」のみの評価を検討 (9/20)
- 「21世紀出生児縦断調査」公表 (9/28)
- 「問題行動・不登校調査」公表 (10/25)

### 📖 時事

- 宿題の出品を禁止。文科省とメルカリ・楽天・ヤフーが合意 (8/29)
- 文科省の緊急全国調査、国公私立大学医学部の約7割で男子の合格率が女子より高いとの結果に (9/4)
- 東京大学、新大学入試で英語民間試験の成績を必須とせずとの基本方針 (9/25)
- 「国語に関する世論調査」公表 (9/25)
- ノーベル医学生理学賞、京都大学の本庶佑特別教授ほかに授与を発表 (10/1)
- ストックホルムの市民文学賞、マリーズ・コンデに授与 (10/12)
- 「過労死等防止対策白書」閣議決定。教員の過重労働対策として教員の増員を求める (10/30)
- ユネスコ、伝統行事「来訪神 仮面・仮装の神々」を無形文化遺産に登録決定 (11/29)
- 「今年の漢字」は「災」 (12/12)

### 📖 「国語に関する世論調査」公表

9月25日、文化庁は2017年度の「国語に関する世論調査」を公表した。

「なし崩し」を本来の意味ではない「なかったこととする」の意味で使う人が65・6%（本来の意味での使用は19・5%）に上るなど、本来の意味から派生した使われ方が広がっていることがわかった。

([http://www.bunka.go.jp/tokui\\_hakusho\\_slhuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/pdf/r1393038\\_01.pdf](http://www.bunka.go.jp/tokui_hakusho_slhuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/r1393038_01.pdf))

### 📖 「問題行動・不登校調査」公表

10月25日、2017年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果が公表された。全国の小、中、高、特支各学校で認知されたいじめの件数は41万4378件。(前年比9万1235件増)。高校のいじめの内訳は、一位が「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」で62・5%。二位は「パソコンや携帯電話などの誹謗・中傷」で17・5%だった。(http://www.next.go.jp/b\_menu/houdou/30/10/1410392.htm)

### ■ 授業における著作物使用の拡大

#### ○ 著作権法改正

「著作権法の一部を改正する法律」が、5月18日に成立した。本改正はデジタル化、ネットワーク化の進展に対応したもので、障害者が著作物を利用することの促進なども含まれる。

学校教育に関する内容として、著作物の使用に関し、以下のような改正があった(第35条関連)。

著作物の使用は、従来対面授業等でのみ無許諾、無償で認められてきたが、今回の改正によって、許諾なしで利用できる分野が広がった。ただし、今回拡大された部分については有償となる。

〔例〕

○対面授業等のために著作物をプリントして配布

↓従来も改正後も無許諾、無償で可能。

○授業のために著作物をメールで送付、ネット上に公開(公衆送信)

### 研究会だより

#### 平成30年度 第3回日本国語教育学会研究部会

日時 2019年2月16日(土)14時~17時  
場所 文京区立窪町小学校  
問合せ 日本国語教育学会事務局  
TEL: 03-6801-5951

#### 日本方言研究会 第108回研究発表会

日時 2019年5月17日(金)  
場所 大阪大学  
問合せ <http://dialectology.jp.org/>

#### 日本語学会 2019年度春季大会

日時 2019年5月18日(土)19日(日)  
場所 甲南大学 岡本キャンパス  
問合せ <https://www.jliling.gr.jp/>

#### 全国大学国語教育学会 第136回茨城大会

日時 2019年6月1日(土)2日(日)  
場所 茨城大学 水戸キャンパス  
問合せ <http://www.gakkai.ac/jtsuj>

#### 全国漢文教育学会 第35回大会

日時 2019年6月15日(土)16日(日)  
場所 京都教育大学ほか  
問合せ <http://www.zenkankyo.gr.jp/>

大修館書店の国語便覧・学習辞典のご案内

# 新学習指導要領も、 新テストも、 (大学入学共通テスト) これで万全！



辞書120%活用アプリ!



**動画 × ドリル**  
アプリサービス付き!

\* 2019年3月よりサービス開始



学びを深める動画リンク



はじまります!

大きく見やすいサイズで国語の世界に親しむ

**New!** まなび動画 Navi 生徒用

スマホ・タブレットなどで視聴できる関連動画や音声を紹介。

- 古典の世界
- 最新時事問題
- 作家本人による朗読
- 作家・作品紹介 ほか

CD-ROM 準拠 CD-ROM 指導用

授業で活用できるデータを満載!

**New!** ● まなび動画活用ワークシート  
**New!** ● 新テスト&アクティブ・ラーニング対応ワークシート

- 小論文のためのワークシート
- 本文データ ● 画像データ
- 準拠問題データ ● 教科書教材対照表

# ビジュアルカラー 国語便覧

大修館書店編集部 [編]  
B5判・496ページ・オールカラー  
本体 880円+税



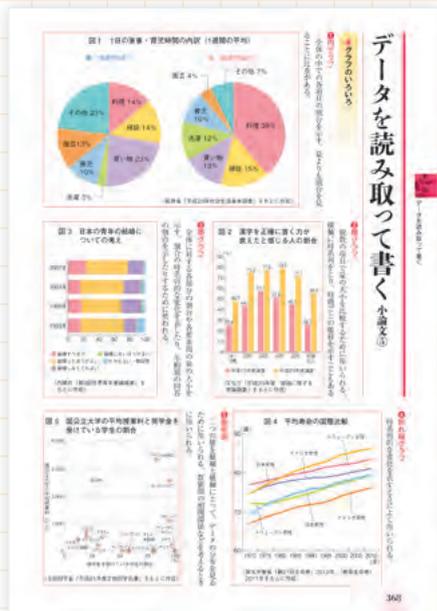
## 書く力・語彙力

「書く力」と、それを支える確かな語彙力が重視される新テスト。  
『ビジュアルカラー国語便覧』は、語彙力と表現力の基礎から応用まで無理なく身につく「言葉と表現編」が充実しています。



## 図表・データ

統計データやグラフの読み取り、それらをふまえてレポート・小論文を書くためのページが充実しています。



## 言語文化・ 探究学習

● 古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化したページを豊富に掲載しました。  
 ● アクティブ・ラーニング、探究学習に活用することができます。



# 新全訳古語辞典



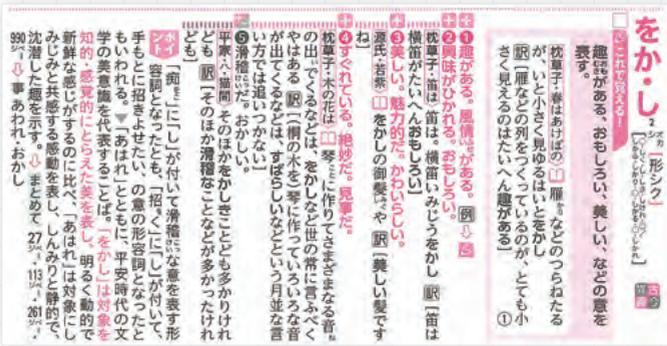
林巨樹・安藤千鶴子 [編]

B6判・1,232ページ・2色刷  
本体 1,800円+税



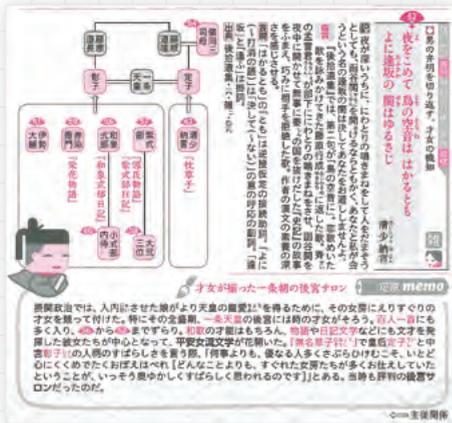
## 語彙・文法

新テストでも、重要古語や古典文法の正確な理解力は引き続き求められます。『新全訳古語辞典』なら、ビジュアルな工夫や丁寧な解説で、語彙・文法の力を確実に身につけられます。



## 和歌・古典常識

「言語文化」がますます重視される新学習指導要領下では、和歌や古典常識への理解力も試されることとなります。『新全訳古語辞典』は、和歌・古典常識・文学史に関わる3つのミニ辞典を収録。楽しく学べます。



辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル  
アプリサービス付き!

\* 2019年3月よりサービス開始

動画 ベリタス・アカデミー阪田先生の「古文文法・重要語活用講義」  
ドリル 「例文で覚える重要古語ドリル」ほか

# 明鏡国語辞典

第二版



北原保雄 [編]

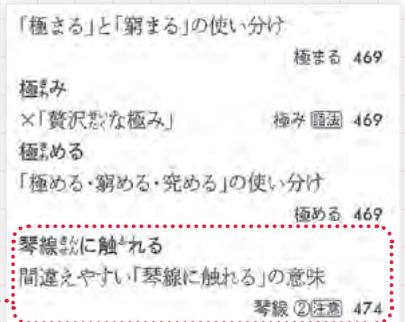
B6変型判・1,954ページ+別冊96ページ  
本体 2,900円+税



## 語彙力

確かなことばの力は、テストが変わっても引き続き求められる、大切な基礎力です。画期的な別冊索引や、定評のある丁寧な解説で、確実に語彙力を身につけることができます。

きん・せん【琴線】(名)●琴の糸。●物事に感動し共鳴する胸奥の心情。「心の琴線に触れる話」(連動)「琴線に触れる」を触れられたくないこと、不快な話題に触れる意で使うのは誤り。「×私の一言が彼の琴線に触れたのか、急に怒り出した」



別冊「明鏡 問題なことば索引」から、間違いやすい用法、敬語などを引ける!

## 言語文化

新テストに向けたモデル問題例では、「日本の言語文化に特徴的な語句」の知識をふまえた出題も見られました。『明鏡国語辞典』は、さまざまな観点で言語文化にふれられるコラムが充実しています。



辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル  
アプリサービス付き!

\* 2019年3月よりサービス開始

動画 サンキュータツオ校閲室長の「明鏡校閲室へようこそ」  
ドリル 「明鏡 ことばの達人ドリル」ほか

